茜町春彦

読書感想文
国体論

第14回
〜
第17回
合併号

扉

読書感想文
『国体論』
第１４回～第１７回合併号

著者：茜町春彦

概要：白井聡著『国体論（集英社新書）』を少しづつ読み進めながら、感想文を投稿しています．この記事は第１４回から第１７回の合併号となります．

読者対象：戦前、戦後、そしてこれからの国家体制に関心のある人

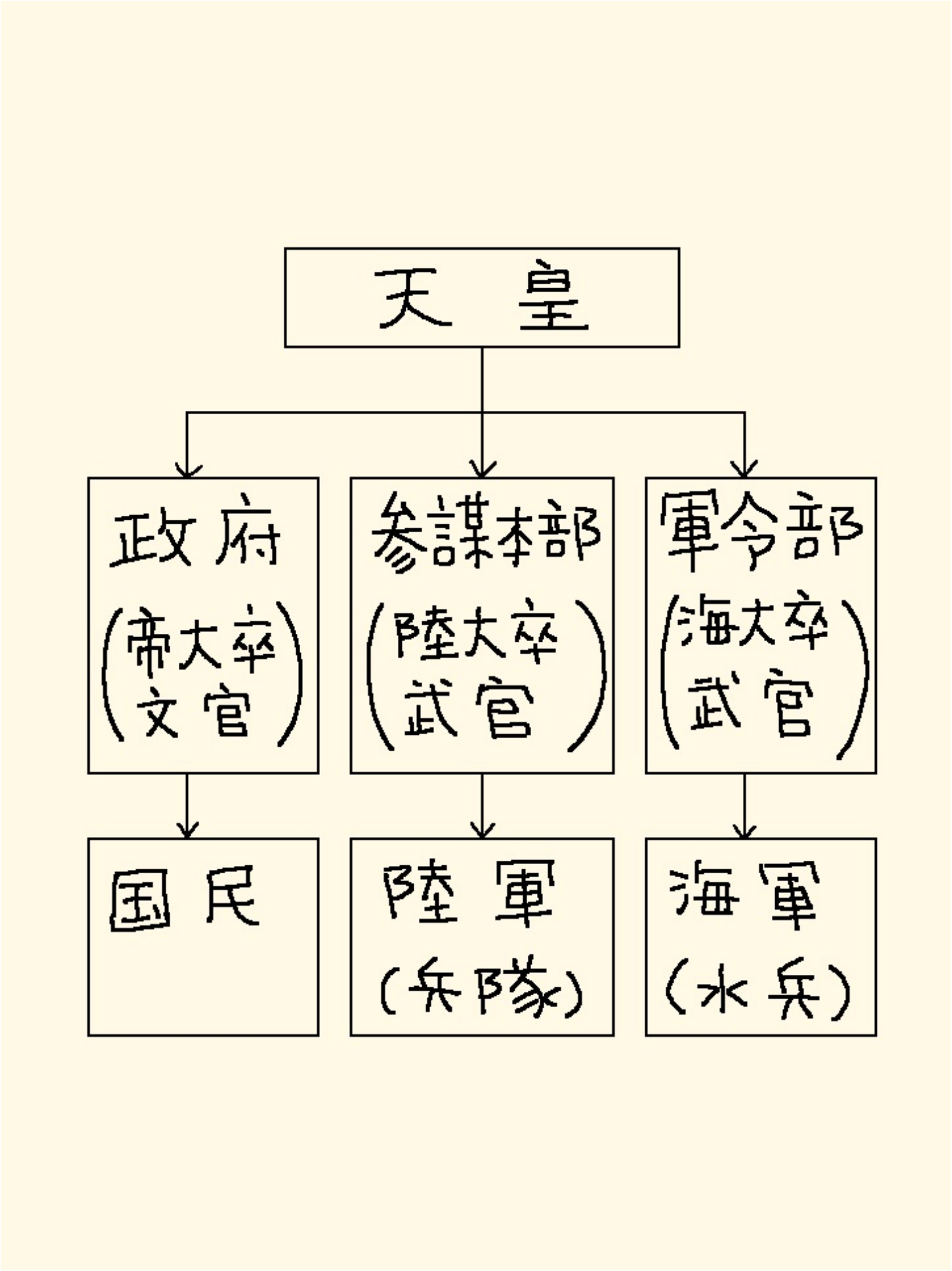
ちょっと引用します．
（Ｐ１６２）・・・「国体は護持されたのか否か」という問いの正解は、「そのいずれでもなく、いずれでもある」というものであろう．すなわち、フルモデルチェンジがなされた・・・フルモデルチェンジされた国体は、アメリカ（マッカーサー）を日本の天皇よりも構造的に上位に戴くかたちで形成されたと言える・・・さまざまな意味で、「あの戦争に負けてよかった」とは、多くの場面で語られてきた戦後の日本人の本音であるが、このような本来あり得ない言明が半ば常識化し得たのは、われわれが「新しい国体」を得たことによると考えるならば、合点がいく・・・
引用を終わります．

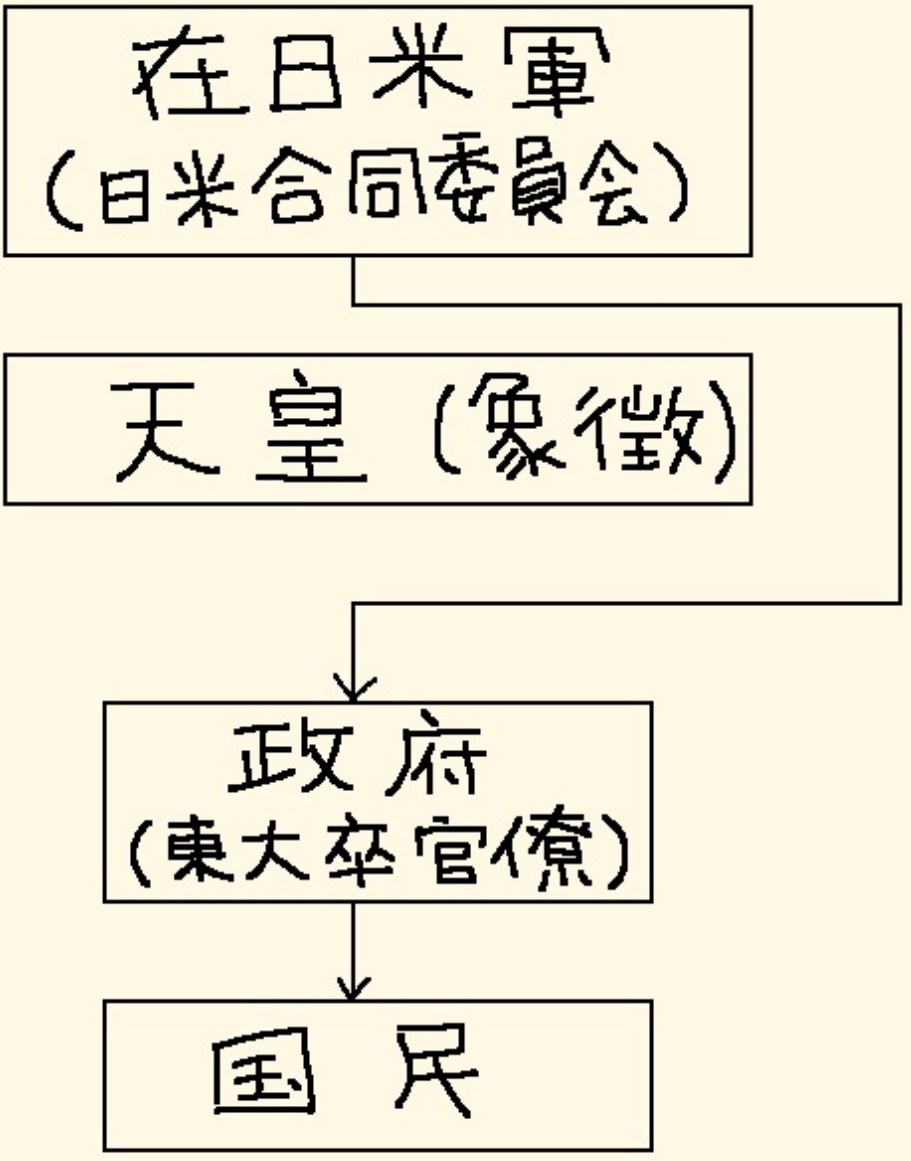
戦前の国家体制がどういうものだったかと云うと、元首で大元帥の天皇の下に政府と参謀本部と軍令部が置かれ、その下で国民と陸軍と海軍が統治されると云う体制でした．

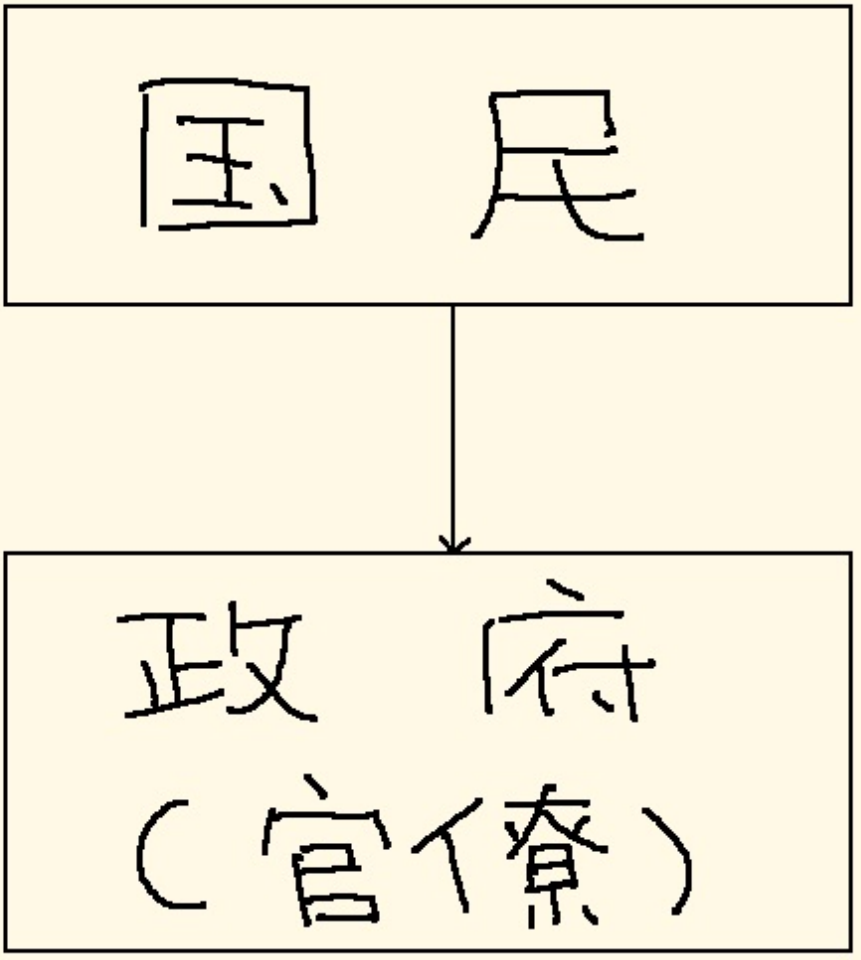
戦後に国家体制がどのように変ったのかと云うと、米軍の支配下に政府があり、その下で国民が統治されるというように変わりました．ただし、米軍の支配は象徴天皇の影にかくれて国民に気づかれないようになっています．

そしてこれから先の未来に於いて、現政権が言うように「戦後レジームからの脱却」をしたら、国民主権の国家体制に移行するはずです．期待しています．
（次回へ続く）

戦前の国家体制




在日米軍
(日米合同委員会)
天皇(象徴)
政府
(東大卒官僚)
国民


国民
政府
（官僚）

後書き

参考文献：
次の文献を参考にしました.

- 国体論：2018年4月22日第1刷発行　白井聡著　集英社新書

ＣＧ画像：
次の画像処理ソフトウエアを使用しました.

- ArtRage 3 Studio Pro　アンビエント社
- Photoshop Elements 10　アドビシステムズ株式会社

著者：
茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します.
2004年より活動を始めたフリーランスのライター＆イラストレーターです．独自のアイデア・考察を社会に提示することをミッションとし、平等で自由な世界の構築を目指して創作活動を行なっております．また、下記WEBサイトに於いても、デジタル作品を公開しております.

- YouTube　（動画共有サイト）
- Google+　（ソーシャルネットワークサービス）
- 楽天Kobo電子書籍ストア　（ネットショッピングサイト）
- はてなブログ　（WEBLOGサービス）
- Facebook ページ　（ソーシャルネットワークサービス）
- Pixiv　（イラスト投稿サイト）
- カクヨム　（小説投稿サイト）
- BOOTH　（物販サイト）

その他：
製品名等はメーカー等の登録商標等です.
本書は著作権法により保護されています.
2018年6月3日発行

読書感想文『国体論』第１４回〜第１７回合併号

http://p.booklog.jp/book/122394

著者 : 茜町春彦
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/122394

電子書籍プラットフォーム : パブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社トゥ・ディファクト